



CISJ NEWS

A Publication of the Clinical Implant Society of Japan

January 2013

ご挨拶



日本インプラント臨床研究会

会長
井 汲 憲 治

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

ご承知のように昨年12月1日の総会におきまして、日本インプラント臨床研究会は一般社団法人日本インプラント臨床研究会となりました。

振り返るに、日本国内でインプラント治療が産声をあげた頃、インプラントの治療を目指す臨床医の集まりとして、乙部朱門先生が中心となり1974年に日本インプラント臨床研究会が創立されました。もちろん日本におけるスタディーグループの草分けです。

現在に至るまで数多くの著名なインプラントロジストを輩出するとともに、口腔インプラント学会での指導的な立場として、本会の諸先輩の先生方のご努力により、インプラント学会の専門医制度の基盤が作り上げられました。また、学会の指定研修施設として、会員の技術・知識の向上のための地道で質の高い研修が引き継がれ、多方面から極めて高く評価されております。

来年、設立40周年を迎えますが、人でいえば不惑（問題が起きても心に迷いが生じないこと）の歳となります。この時期に本会が法人格として社会に認知されるようになりましたことは、インプラント治療の未来を確信して、迷わずに進んできた我々会員にとって、とても嬉しいことであります。

会の運営におきましては、関連する法令に則って進めることは勿論のこと、納税等の法人における義務も生じてまいります。そのため、一般社団法人格に則すよう、組織や運営の改編を進めております。

“臨床技術（腕）”を高めること、会員一人一人が“一騎当千のインプラントロジスト”になること等、臨床研究会の発足当時の基本理念はこれからも揺ぐことはありません。インプラントの知識・技術研鑽のための研修事業は、今後更に充実されていきますので、会員の先生方におかれましては、引き続き積極的に会務・研修に参加してください。ともに、社会から評価される“日本一のインプラント専門医の会”を目指しましょう。